

■ 冬に向かって ■

昨冬は、近年にない小雪の冬でした。ビジターセンターで観測した積雪は2月11日で106cmでした。一昨年は3月14日に238cmでしたので、本当に小雪の冬でした。

冬とは？一説には、寒さが威力を「ふる（振）う」意、寒さに「ふる（震）う」意。また「ひゆ（冷）」「ふゆ（殖）」の意からなどともいう四季の一つ。



秋に次ぎ、春に先立つ季節で、一般には、十二月、一月、二月の三か月の称。

陰暦では、立冬から立春まで、十月、十一月、十二月の三か月。

天文学上では、冬至から春分まで、即ち十二月二十二日頃から三月二十一日頃まで。

四季の中で最も寒い。（広辞苑より）

裏磐梯のような雪国では、そろそろ冬の準備に忙しくなる頃です。除雪機の点検・整備、スノーダンプやスコップの用意、冬用タイヤへの交換などなど。そして暖房機の用意、ストーブや炬燵を用意するご家庭も多いことと思います。

今年は、11月4日には磐梯山が雪で白くなり、毘沙門沼からは、カエデの紅葉と、雪化粧した磐梯山を見ることができました。また、11月9日にはビジターセンター周辺でも初雪が降りました。

裏磐梯で一番最後まで紅葉が残る毘沙門沼のカエデは11月20日に全部の葉が落ちました。これから本格的に冬を迎えます。スキー、スノーシューなど楽しみもたくさんあります。今年はどんな冬になるのか楽しみです。



■ こんなの見なかった？ ■

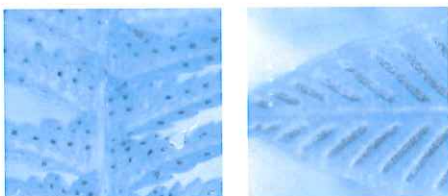
裏磐梯でよく見かける不思議なもの…さて、なんででしょう？

森に入るとよく目につくシダ。シダにもいろいろな種類がありますが、どれも似たような葉っぱだけで花も咲かず、特徴がなさそうに感じます。ですが、夏から秋にかけ、葉っぱをひっくり返して葉の裏を見たことがありますか？右の写真では、右の葉が表で、左が裏です。葉の裏についている茶色のつぶつぶは、さて何でしょう？

- ① 昆虫のたまご
- ② 昆虫の幼虫のフン
- ③ シダについたカビの一種
- ④ シダが分泌した老廃物
- ⑤ シダの赤ちゃん（種子）

答えは、①～⑤のどれでもありません。正解は、ソーラス（孢子囊群）と呼ばれるシダの植物体の一部です。ソーラスの中に孢子囊（ほうしのう）が入っていて、孢子囊の中に大きさが0.05mmほどのとても小さな孢子が入っていて、これが周りに飛び散ります。

ただ種子とは違い、まだシダの赤ちゃんとは呼べません。孢子はやがて数ミリの大きさの前葉体というハート形のコケのような植物体になり、この中で受精が行われた後、ようやくシダの赤ちゃんになり、新しいシダになります。ソーラスの形は下の写真のように、シダの種類により様々で、見分ける手がかりになります。



シダ植物は、地球の歴史上、完成された初めての陸上植物で、遅れて進化し今日繁栄している花の咲く種子植物とは大きく異なります。ワラビやゼンマイ、コゴミ（クサソテツ）もシダ植物！皆さんも古代植物の生き残りともいえるシダ植物を、じっくり観察してみてください。